

箱根美術館（苔の庭）

箱根の湿潤気候は、多くの種類の苔に適しており、この地域全体の老木の表面や森の中に見ることができます。それでも、箱根美術館の庭に展示されている苔の種類の豊富さは驚異的です。ここでは約 130 種の苔が 200 本以上のモミジの木陰で育っていますが、これは岡田茂吉（1882 年—1955 年）が集めたものです。彼はこの美術館の設立者で、日本、中国、南アジアの古美術品の熱心な収集家でした。美術館と庭があるのは強羅で、ここは、1920 年代から高級別荘地として有名です。岡田は、第二次世界大戦後、天文学的数字だったこの地域の地価が若干勢いを失った時に、戦時中に放置されていた日本庭園を購入しました。やや小さめの区画は、数万年前に早雲山が噴火した時の溶岩流が形成したものです。今でも大きな火山岩がいろんな場所で見られます。岡田はこれらの大きな岩の位置を自分の希望通りに変えさせ、公園の残りの部分を自分の好みで設計しようとしてしました。彼は、京都の苔庭に着想を得て、強羅の区画が十分に披露できるようなものに仕上がるまで、日本全国から植物を集めまし

た。箱根美術館と苔庭は 1952 年に公開され、現在もどこか異世界のような独特の外観を保っています。